

現行計画・第1部に対する主なご意見

□現行計画について

【大串委員】

- 新たに計画を策定するという一方で、前回課題として挙げられたことにおいて、解決できたこと、進めることができたこと、改善できたことがあれば、教えて頂きたい。

□第1部 関西の現状と課題

(全般)

【橋爪委員】

- 計画全体として人口減少だけではなく、「国土全体の危機や課題は何か」を明確にすべき。
- 国際競争力の強化ということが示されており、スーパーメガリージョンの進化で世界唯一の新たな大都市圏をめざすというところがあるが、この世界唯一というものはどういうことかということをしっかり考えなければならない。

【小林委員】

- 日本はまだコロナ禍で、すでにコロナ前の生活に戻っている東南アジアに負けてしまうのではないかとの危機感を持っている。日本への留学支援や企業窓口のある施設は閑散としていたのに対して、大学のインキュベーションセンターは今どきのデザインのカフェテリアがあり満員だった。

【大串委員】

- 外から見た関西は、洗練された空間と海外の空間、長い歴史とイノベーション、圧倒的な宗教施設の多さを有している。

<関西の特徴>

(4) アジアとのつながりが深い関西

【竹林委員】

- 1つはアジアと縁が深い関西とあるが、本当かと聞きたい。典型的な例は産業だが、産業のネットワークがきちんと関西からアジアのどこかときちんと出来上がっているかと聞きたい。例えば、パートナーの国、あるいは投資はどうなっているのか。

【橋爪委員】

- 真にアジアとの関係について、どのように考えるのか。現状を把握しながら計画を作る必要がある。

【都司委員】

- このデータの中に、日本・関西に在留する外国人の推移や目的、他の国に在留する外国人数との比較といった現状分析が必要。

(5) 人と自然のつながりが深い関西

【平山委員】

○現状では、自然環境保全と農山村の振興では、親和性が高いにも関わらず、分野横断的な政策連携があまりうまく行っていない所もあるため、分野間の連携について追記が必要。

<関西を取り巻く現状と課題>

(2) 関西の相対的地位の低下と東京一極集中からの脱却

【大串委員】

○先に東京一名古屋間にリニアが繋がると、大阪まで50分、東京は40分となり、交通が変わる姿も近未来的にあると思うので、危機感を持たなければならない。人口流出が更に激しくなることをしっかりと見据えた上で、今の関西の魅力を強調できるような計画にしていきたい。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外国人旅行者の急激な減少

【竹林委員】

○観光需要は爆発するが、それは短期的な話で、中長期的にはどうなるかわからない。

(4) ポテンシャルを活かし切れていない関西

【長町委員】

○決して関西で女性が活躍していないということではなく、全国でも女性活躍推進が進んでいるために相対的に見ると、まだ関西の女性の活躍の余地がある。

【長町委員】

○女性が働くことができる場の充実が必要。地方の大学がないエリアでは、女性に限らず若い男性も一度は、大阪の中心部など都会に出てくるため、地方に戻れるかどうかということも課題になる。

【橋爪委員】

○関西の圏域のひとつの特徴は、地域それぞれの創意工夫を示すことである。これは圏域の中に、それぞれ魅力ある地域があるということであり、強みはそれぞれが際立つことをしていく所に尽きる。そういう部分を加速させるということは大事。

(5) 人と自然のつながりが深い関西

【都司委員】

○カーボンニュートラルについては、計画の重点分野であり、スーパーメガリージョンの深化や産業の再配置といった全てに関わる大きなテーマである。このため、基本事項としてデータを含めた現状整理が必要。

(7) 社会資本の老朽化

【鎌田委員】

- 関西を脅かす自然災害リスクについて、リスクの整理や課題の抽出はされているが、それに対する対策の状況整理もして頂きたい。
- 社会資本の老朽化とあるが、全国的に道路橋や鉄道橋のデータというのは一般的に示されているが、上下水道や港湾、河川とか広く、施設の老朽化の現状を全国的にみて、関西ではどこが厳しく、どこは余裕があるかということを確認して頂いた方が良い。

(8) 関西を巻き込む大きな潮流変化

【高橋委員】

- 自動運転の開発や各種の規制緩和を取り込み、整備していくことも必要。

【小林委員】

- 東南アジアでは、コロナ禍にデジタル化、キャッシュレス化が進み、キャッシュを使う機会が全くなかった。